

履修証明プログラム開設計画書

実施部局名	医学系研究科 (代表)、大学病院、歯学研究科、災害科学国際研究所
実施責任者 (所属)	八重樫 伸生 (大学病院長)
プログラムの名称	災害マネジメント人材養成プログラム
<p>プログラムの目的及び内容</p> <p>1) 目的 2) 内容 (編成方針等) 3) 修了後に身に付く能力 4) 履修証明を行う社会的な意義</p>	<p>1) 目的</p> <p>東日本大震災の経験や昨今の我が国をとりまく世界情勢を踏まえると、我が国の災害医療において現在求められている医療人材とは、平時 (準備期) から地震などの特定の災害だけでなく、災害の種類にかかわらず災害対応体制を整備し、かつ発災後は急性期のみならず慢性期まであらゆるフェーズで実効的に対応しうる人材である。すなわち、津波や地震などの自然災害のみならず、CBRNE (化学: Chemical、生物: Biological、放射性物質: Radiological、核: Nuclear、爆発物: Explosive) 災害などの人為災害、中でも、福島原発事故に代表される R 災害に対しても平時からレジリエントな対応体制を構築し、発災後もすべてのフェーズでより適切に対応・マネジメントでき、急性期の応急的対応に加え、亜急性期以降の避難所避難者や域外避難者、被災地住民に対するメンタルを含むヘルスケアをより効率的に実行できる高度医療人が必要とされている。同時に、それらの活動を後方から効果的にサポートでき、様々な職種の多様な能力を取りまとめ、チームとして協働することにより効果的なアウトカムを引き出すことができる人材の養成が求められている。多くの自治体において「災害医療コーディネーター」制度が導入され、研修についてもテーマごと地域ごとに個別に行われてはいるが、体系化標準化されているとは言えないのが現状である。従って、これらの実践的なスキルを身に付け、「コンダクター」として総合的なオペレーション能力があり、さらに現状の課題を抽出して研究や次の災害への準備を進め、今後の我が国や世界の災害医療の向上に寄与することができる人材を養成することは、災害大国のわが国にとって喫緊の課題である。そこで、本プログラムでは、自然災害、CBRNE 災害、それらを合わせた複合災害に対応でき、様々な職種とチームとして協働でき、他組織と連携し、急性期から慢性期にかけて現場でも後方でも機能する「コンダクター型災害保健医療マネジメント人材」を養成する。</p> <p>2) 内容</p> <p>〈必修科目〉 110 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害保健医療トレーニング (合計 47 時間) (災害急性期活動実習、災害保健医療コーディネーション実習、ロジスティックサポート実習、災害メンタルケア実習、災害公衆衛生実習、災害薬事実習、CBRNE 対応実習で構成) ・災害保健医療セミナー (合計 55 時間) (災害保健医療コーディネーションセミナー、災害公衆衛生セミナー、災害時組織対応セミナー、災害派遣セミナー、災害国際協力セミナー、災害歯科学で構成)

	<p>・災害科学特論 (8 時間)</p> <p>〈<u>選択科目</u>〉 (下記から 10 時間相当を選択)</p> <p>災害医学特論 (ISTU 講義 ; 90 分講義 13 回)、<u>巨大災害に対する保健医療の備え</u> (座学講義 ; 90 分講義 16 回)、<u>感染症とヒューマンセキュリティ</u> (座学講義 : 90 分講義 12 回)</p> <p>3) 修了後に身につく能力</p> <p>多様な災害の様々な局面への対応の在り方、災害急性期の医療・保健対応だけでなく、慢性期のヘルスケア (歯科、精神医学など) や特殊な災害 (CBRNE) への対応を実践的に修得できる。さらに、災害を、地震、津波などの科学、備えと避難に関して科学的な視点で分析し、対応する能力が修得可能である。また、災害時における垂直連携、水平連携、IPE (多職種連携教育) などの有効な災害時連携スキルが修得できる。</p> <p>4) 履修証明を行う社会的な意義</p> <p>履修証明書の取得は職業能力証明としてキャリア形成の支援となる。また宮城県在住の修了者で、希望する場合には、災害時における宮城県災害医療対策本部や地域災害医療対策会議へのボランティアスタッフ参加可能な「宮城県災害医療ロジスティックスタッフ」に登録できる。これにより受講者が修得した災害保健医療スキルを実災害に生かす環境が担保される。これらにより、宮城県の災害医療における専門人材の充実が図られる。</p>
履修資格	<p>以下の条件をすべて満たす者とする。</p> <p>①高校を卒業した者</p> <p>②医師、歯科医師、看護師、薬剤師の資格を有する者、または、その他医療職 (医療関連行政職、病院職員など) に従事する者</p>
定員	10 名程度
総時間数・受講料	<p>120 時間 ・ 60,000 円</p> <p>※実習にかかる個別の費用は自己負担とする</p>
修了要件	<p>① 所定の履修科目 120 時間を修了すること</p> <p>② 文部科学省事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成」プログラムに設置されるプログラム運営委員会 (医学系研究科長、大学病院長、歯学研究科長、災害科学国際研究所長、福島県立医科大学医学部長などで構成) で認定を受けること</p>
実施体制	<p>本履修証明プログラムは、文部科学省の平成 30 年度大学教育再生戦略推進費「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された「コンダクター型災害保健医療人材の養成」プログラム (採択期間 : 2018 年 9 月～2023 年 3 月) で設置する教育コースの一つである「災害マネジメントコース」として実施するものである。履修証明プログラム (災害マネジメントコース) を含む全体プログラムには、医学系研究科、東北大学病院、歯学研究科、災害科学国際研究所に加えて、福島県立医大の関連組織が共同で参画する。</p>

	<p>東北大学の履修証明プログラム（災害マネジメントコース）については、東北大学病院災害対応マネジメントセンター、福島県立医科大学附属病院災害医療部の教員および本事業専任教員を中心にプログラムを実施する。個々のセミナーおよび実習の運営に当たっては、上述の部局の教員に加え、連携施設（国立病院機構災害医療センター、日赤医療センター、災害医療 ACT 研究所など）の外部講師を招聘し受講生への指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 履修証明プログラム総括：石井正（大学病院 教授） ● 科目開発・実施担当：石井直人（医学系研究科 教授） ● 学習管理担当：東北大学病院 総合地域医療教育支援部 	
開設期間	2019年4月 ～ 2021年3月	
教授会等承認月日	2019年1月23日	
開設科目等		
講習又は授業科目名	時間数	担当講師（所属）
災害保健医療トレーニング（必修）	47時間	石井正（大学病院）、藤田基生（医学系研究科）、富田博秋（医学系研究科）、泉貴子（災害科学国際研究所）、佐々木宏之（災害科学国際研究所）、阿部喜子（東北大学病院）、今井浩之（大学病院）、辻一郎（医学系研究科）、小坂健（歯学研究科）、村尾修（災害科学国際研究所）、島田二郎（福島県立医科大学）、長谷川有史（福島県立医科大学）など
災害保健医療セミナー（必修）	55時間	
災害科学概論（必修）	8時間	
※以下の科目が提供する講義から10時間分を選択		
災害医学特論（一部を選択）	13コマ（19.5時間）から選択	張替秀郎（医学系研究科）
巨大災害に対する保健医療の備え（一部を選択）	16コマ（24時間）から選択	江川新一（災害科学国際研究所）
感染症とヒューマンセキュリティ（一部を選択）	12コマ（18時間）から選択	押谷仁（医学系研究科）

※講習及び授業科目については、その講習内容又は授業科目内容を添付すること。

授業科目一覧

(必修科目)

1) 災害保健医療トレーニング (47 時間) 開講期間：2019 年 5 月～2021 年 3 月

主題	時間	担当者 (所属)	内容
CBRNE 対応実習	8	石井正 (大学病院)、島田二郎 (福島県立医科大学)、長谷川有史 (福島県立医科大学)	CBRNE (化学:Chemical、生物:Biological、放射性物質:Radiological、核:Nuclear、爆発物:Explosive) 災害などの人為災害、中でも、福島原発事故に代表される R 災害に対する医療実習
災害保健医療コーディネーション実習	15	石井正 (大学病院)、災害医療 ACT 研究所派遣講師	災害想定俯瞰演習、避難所アセスメント演習、本部運営技術演習、救護班調整演習などの災害時医療実践のための演習
災害急性期活動実習	4	石井正 (大学病院)、島田二郎 (福島県立医科大学)、山内聡 (大崎市民病院)	BLS (Basic Life Support (一次救命処置))、MCLS (Mass Casualty Life Support (多数傷病者への医療対応標準化トレーニング))、エマルゴ、BLS0 (Basic Life Support in Obstetrics の略称。交通事故などの妊婦外傷を含む病院前の産科救急的対処)、JPTEC (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care) などのハンズオンセミナー
災害公衆衛生実習	4	石井正 (大学病院)、原田奈穂子 (宮崎大学)	国内や地域の自然災害事例を取り入れた実際の支援時や計画時の留意点を学ぶ実習
災害メンタルケア実習	8	富田博秋 (医学系研究科)	災害急性期および慢性期における精神医学的メンタルケアに関する実習
災害薬事実習	4	石井正 (大学病院)、林宗博 (日赤医療センター)	災害時の薬事対応や薬事トリアージに関するハンズオンセミナー
ロジスティックサポート実習	4	石井正 (大学病院)	災害時における情報管理、通信機能の確保、医療活動を展開する人員の確保、医療資器材の手配、被災地における行政機関等との調整などに関するハンズオンセミナー

2) 災害保健医療セミナー (55 時間) 開講期間：2019 年 5 月～2021 年 3 月

主題	時間	担当者 (所属)	内容
災害保健医療コーディネーションセミナー	8	石井正 (大学病院)、災害医療 ACT 研究所派遣講師	災害を想定して避難所アセスメント、本部設営や救護班調整などの災害時医療実践のためのワークショップ
災害公衆衛生セミナー	8	石井正 (大学病院)、原田奈穂子 (宮崎大学)	支援における Q&A (Quality and Accountability) の重要性と歴史的背景、スフィアや CHS などの主要文書類の概要とポイントを学ぶ

災害時組織対応セミナー	8	藤田基生 (大学病院)、阿部喜子 (大学病院)	災害静穏期から準備期における災害へ備え (防災訓練、BCP など) のあり方に関する座学講義
災害派遣セミナー	8	石井正 (大学病院)、島田二郎 (福島県立医科大学)、小早川義貴 (災害医療センター)	災害時に被災地に派遣する DMAT 等の支援のフレームやその方略について学ぶ座学
災害国際協力セミナー	15	泉貴子 (災害科学国際研究所)	国外の大学・国際機関 (環太平洋大学協会など) との災害に関する国際協力活動についての座学
災害歯科学	8	小坂健 (歯学研究科)	災害急性期および慢性期における歯科医療、特に口腔ケアに関する講義、ワークショップ

3) 災害科学概論 (8 時間)

担当：泉貴子 (災害科学国際研究所)

津波、地震などの災害に関する科学的な知識について講義を行う。

〈選択科目〉

以下の3科目ではオムニバス形式で90分の講義が実施される。受講者は、当該3科目が提供する41回の講義から興味がある講義を7回分(10.5時間)以上受講する。

1) 災害医学特論 (日本語：ISTU) 随時開講

代表担当：張替秀郎 (医学系研究科)

- ・災害による病院機能喪失時の医療者の対応
 - ・受け入れてわかった災害医療に必要なこと
 - ・災害医学概論と災害医学のウツタイン様式
 - ・東日本大震災の医療支援における臨床検査の役割
 - ・放射線被ばくと人体への影響
 - ・東京電力福島第一原発事故への医療対応
 - ・東日本大震災時の東北大学病院の現状と対応および看護部の活動
- など13コマ (19.5時間)

2) 巨大災害に対する保健医療の備え (英語座学講義) 開講期間2019年6月～2020年8月

代表担当：江川新一 (災害科学国際研究所)

- ・Disaster in Asia
 - ・Nuclear and radiological disaster and medical response
 - ・Sendai framework for disaster risk reduction
 - ・Disaster and infectious disease
 - ・Support receiving capacity
 - ・Disaster and mental health
 - ・Disaster and medical information
- など16コマ (24時間)

3) 感染症とヒューマンセキュリティ (英語座学講義) 開講期間 2019 年 10 月～2020 年 2 月

代表担当：押谷仁 (医学系研究科)

- ・ヒューマンセキュリティと保健医療
- ・感染症とヒューマンセキュリティ
- ・感染症アウトブレイク対応の基本事項
- ・感染症アウトブレイクの教訓：自然災害後の感染症
- ・健康危機におけるリスクコミュニケーション
- ・感染症アウトブレイクの教訓：エボラ感染症
など 12 コマ (18 時間)